

	熊本大学 保健系分野（看護学・医療技術学、学際・特定）
学部・研究科名	<p>医学部保健学科</p> <p>看護学専攻（第1年次：70名、第3年次：10名）</p> <p>放射線技術科学専攻（第1年次：37名、第3年次：3名）</p> <p>検査技術科学専攻（第1年次：37名、第3年次：3名）</p> <p>大学院保健学教育部（M：16名、D：6名）</p>
沿革・設置目的	<p>熊本大学医学部附属看護学校、附属診療エックス線技師学校、附属衛生検査技師学校を経て熊本大学医療技術短期大学部が設置された後、平成15年、看護学、放射線技術科学及び検査技術科学に関する教育・研究を行うことを目的とした医学部保健学科として設置された。</p> <p>昭和24年（1949年） 熊本大学設置</p> <p>昭和26年（1951年） 医学部附属看護学校設置</p> <p>昭和39年（1964年） 医学部附属衛生検査技師学校設置</p> <p>昭和40年（1965年） 医学部附属診療エックス線技師学校設置</p> <p>平成15年（2003年） <u>医学部保健学科設置</u></p> <p>平成16年（2004年） 国立大学法人に移行</p> <p>平成20年（2008年） 大学院保健学教育部（修士課程）設置（平成22年（2010年）に博士課程後期を設置）</p>
強みや特色などの役割	<p>○ 熊本大学の理念等に基づき、人間に対する尊厳や高い倫理観、グローバルで多様な価値観を受け入れることのできる、知識を実践に活かせる高い実践能力を備えた看護専門職業人や医療技術者を育成するために、学部教育においては、看護学専攻、放射線技術科学専攻および検査技術科学専攻の3専攻を有する強みを活かし、各職種間の相互理解やチーム医療に関する理解を深める教育を推進する。</p> <p>○ 看護系の大学院教育においては、チーム医療の中で重要な役割を担い、かつ地域のニーズに対応する分野を中心に看護の質改善に貢献できる専門看護師（精神・在宅・がん）を育成するとともに、看護系大学の急激な増加に対して、大学院において社会人を受け入れ、看護教育に貢献できる看護教員を育成する。</p>

- 先端医療で必要な、高度な専門知識・技能と国際的視野を持ち、熊本を中心とした九州内の基幹病院で指導的な立場に立つ医療技術者や、医療技術の改善・開発に携わる人材及び医療技術教育者を育成する。また、附属病院を持つ総合大学である強みを活かし、学内外の医学・工学分野との連携による診断や検査、治療に関する共同研究等を積極的に推進し、医療技術の向上に寄与する。
- 附属病院や地域と連携し、高齢者の増加にともなう認知症患者やがん患者・老年期うつ病患者の増加等に対応し、精神科リエゾンチーム等の新たなケアモデルやプログラム等の開発、関連する教育・研究を始めとする取組を推進し、社会的課題の解決に向けて貢献する。